

生活保護申請 11年ぶり増

2020年度の生活保護の申請件数と、決定を受けて新たに利用を始めた世帯数が11年ぶりに増加に転じた。新型コロナウイルスの影響による厳しい雇用情勢などを反映したとみられる。今年に入って伸びは加

速している。▼2面＝コロナで広がる貧困
厚生労働省が2日、今年3月の申請件数などの概数を公表し、20年度分が出そろった。20年度の申請件数は22万8081件で前年から2・3%増、利用開始世

帯数は20万2856世帯で2・1%増だった。どちらも、前年度から増えるのはリーマン・ショックの影響を受けた09年度以来。

20年度の申請数を月ごとに見ると、最初の緊急事態宣言が出た昨年4月に前年同月比24・9%増と跳ね上がり、年度内で最も高くなつた。その後5～8月は前年同月を下回って推移したもの、9月からは今年3月まで7カ月連続で前年同月を上回る。この7カ月間は増加幅も拡大し続け、3月は8・6%増となった。保護開始世帯数も、20年4月が同14・9%増で、年度内で最も高い伸びを示した。
(久永隆一)

